

ハンドボール
(沖縄県豊見城市民体育館)
▽男子準決勝

琉球コラソンU15 32(16-15)31 G.H.R (群馬)
▽同決勝
成田 38(16-16)34 琉球コラソンU15 (宮城)

(成田は初優勝)
▽女子準決勝
仲西 30(13-12)27 田辺 (京都)
▽同決勝

鶴城 40(16-12)23 仲西 (熊本)
(鶴城は2年ぶり7度目の優勝)

コラソン粘り及ばず

男子準V 流れ手放し失点重ねる

ハイライト

男子決勝で琉球コラソンU15は成田(宮城)の勢いを止められず、34-38で敗れて準優勝だった。主将の古謝虎太郎は「悔しい。最後まで流れを変えられなかった」と肩を落とした。

出だしはゴール前での突破を許さず、速攻や波状攻撃を決め、前半6分で6-1とリードを奪った。だが直後、2分間の退場者を出すと流れが一変。連続失点で追いつかれ、16-16で折り返した。

後半も相手ペースで焦りが生じる。パスミスが増え、ノーマークでのシュートチャンスも何度も外した。守備では相手の7人攻撃や速攻に苦しみ、失点を重ねた。

「自分がチームを勝たせろ」と、同13分から古謝と宮里叶一が個人技で突破し得点したが、勢いを止められずに34-38で終了。相手監督の胸上げを、悔しそうに見つめながら涙を拭いた。

チーム創設時に掲げた「3年目で全国優勝」には一步届かなかったものの、初出場で準優勝を成し遂げた。宮里は「悔しい結果だが、みんなで決勝まで来られて良かった。ありがとう」と礼を述べた。

創設当初からチームを率いた東江功子監督は「2回戦から決勝まで、楽な試合は一つもなかった。この3年間で粘り強いチームになった。この負けも良い経験値になる」とねぎらった。

(大城祥一)



男子決勝 琉球コラソンU15-成田 後半、シュートを放つ琉球コラソンU15の宮里叶一＝豊見城市民体育館(宮城貴浩撮影)



男子準優勝の琉球コラソンU15

仲西 速攻で勝ち抜く

女子準V 決勝数的優位生かせず

女子決勝で仲西は、九州大会で27点差で敗れた鶴城(熊本)へのリベンジを狙ったが23-40と及ばず、準優勝だった。試合後は悔し涙に暮れたものの、「沖縄開催という最高の舞台で、決勝まで戦えて良かった」と最後は笑顔を見せた。

走力を生かした速攻で勝ち上がった。決勝の前半序盤、GK玉城双葉が好セーブを連発し、接戦に持ち込んだ。「相手から見てゴールの近めをわざと空けて、シュートを打たせた。自分が止めて、流れをつくるのができた」と振り返る。

だが相手1人が退場し、有利になった場面を生かせなかった。1点リードは連続失点で8-9と逆転され、後半はリードを広げられた。大田千紗は「後半は、攻める気持ちが強過ぎてサイドを使えなかった。ボールを奪われたときの戻りに油断した」。春夏連覇した鶴城の速攻と当たりの強さに、最後まで苦しんだ。

それでも、全国準優勝は偉業だ。決勝で8得点した3年生の石川奈南は「負けたが楽しかった。最後まで諦めず、仲間と一緒に戦うことができた」と語った。

濱里季楽(きさら)監督は「選手は百点満点。7人のウオーターバッグを持てたの走り込みが生きた。みんな、頑張ってくれた」と褒めた。

(又吉健次)



①女子決勝 仲西-鶴城 後半、仲西の石川奈南が18点目を決める(宮城貴浩撮影) ②女子準優勝の仲西